

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の住民とのつながりを重視し、福祉のネットワークを強化することにより利用者が地域の中で暮らしやすくなることに全力を傾ける		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の全員が理念を理解し、実践できているとは言えない	○	すべての職員が理念を共有するために、勉強会、会議において理念の浸透を図る
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族については度々ホームを訪ねられる方には、話す機会もあるが、中にはほとんど来られない方もあってすべてに理解してもらえているとは言えない。地域の人々については運営推進会議に参加してもらい、理解してもらえよう取り組んでいる	○	ホーム内のよく見渡せる場所に理念を掲示する。来られない家族には文書で知らせる。地域の人々には運営推進会議を活用して、多くの方に参加して頂き理念を理解していただくようにする
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に声を掛け合えるほどの付き合いは出来ていないが、近所の方と出会えばこちらから挨拶をするし回覧板の受け渡しとかの付き合いが出来ている。定期的な近隣の掃除にも参加し、めぐみの丘の職員であることを見知ってもらえている	○	管理者、職員は出来るだけ積極的に地域の方との付き合いを深めていきたいと願っているが、なかなか地域の方には気軽に立ち寄ってはもらえてないので、クリスマス会や敬老会などホームの行事に招待するなどしてふれあう機会を作っていきたい
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者が自治会の役員を引き受け、夏祭りのカラオケ大会の司会をしたり、利用者は夏祭りや小学校の文化祭に参加したりして、地域の人々との交流に努めている。定期的には近所の教会の日曜礼拝に参加している(月に2回ほど2~3人ぐらい)	○	利用者が高齢化し、重度化し以前ほど地域の行事等に参加することが難しくなっているが、出来るだけ地域の方々との交流を深める機会を作りたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域における高齢者の状況(団地内での老人の一人暮らしが増えている等)を見聞きするがそれに対して事業所としての取り組みは出来ていない	○	運営推進会議等で地域の高齢者の抱える問題点など話し合い地域の高齢者の暮らしに役立つことがあれば積極的に取り組んでいきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	継続的改善の大切さを知る上で第三者評価は重要視している	○	定期的に第三者評価を受けていなかったもので、今後は評価を生かして具体的な改善に取り組みたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2~3月に1回運営推進会議を開き現況報告や話し合いをし、近隣からの苦情等要望にはすぐに対応し、又質問などに答えてホームへの理解を深めてもらえるようにしている	○	運営推進会議の参加者が限られているので、今後はより多くの参加者を募り、多方面の意見等を聞き、サービスの向上に生かす
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区ごとの連絡協議会に参加し、交流を図っている。そこで制度的な扱い等で学ぶ機会がある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の中には学ぶ機会を持ち、十分な知識を持っているものがいる。が、関係者が話し合ったり、それらの活用についての支援は出来ていない	○	学習済みの職員を中心に、勉強会を開き全職員が理解し、制度を活用できるように支援する
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持ち、虐待防止に対する意識を高めている	○	職員全員が虐待防止の意識を共有して介護にあたり事業所内での虐待の防止に努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	利用者の家族や身元引受人に対しては入所時に重要事項説明書を用い管理者、計画作成担当者、介護職員、事務職員が同席して十分な説明を行い、また質問にも答えて納得してもらえるよう努めている。重要事項説明書には確認のための署名捺印をもらっている		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	利用者の家族は面会時とか電話またメールでホームに対する思い伝えられる。その都度、運営者、管理者、介護者、事務職員はその家族の意見を十二分に聞き反映させるよう努めている		
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告	利用者の暮らしぶりや健康状態などを、行事のあった後などに写真を添えて報告している	○	職員の異動やホーム内の出来事を“便り”に含めれば良いと考える
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
15	○運営に関する家族等意見の反映	“顧客情報受付表”、“意見箱”なる物を設け、意見・苦情等を受けようとしている	○	今後、運営推進会議に家族さんに参加して頂く機会を設け、運営に反映させてゆきたい
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
16	○運営に関する職員意見の反映	定期的に会議を開きその場で職員の意見や提案を聞くことにしている。運営者、管理者はその意見を反映させるよう努めている		
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者の急変等、緊急時の対応は、休日、夜間であっても出来るよう職員の確保が出来ている。緊急マニュアルを作り、電話等の呼び出しにより近隣居住の職員が対応している		
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている			

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は極力無くし、出来るだけ近隣居住の職員を採用している。管理者、事務職員は長年勤めており利用者や家族とも馴染みの関係が出来ている。職員は離職を少なくするため会議とかでの意見の交換がしやすい状況を作っている</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は個人的に資格取得のため勉強しているが、出勤日を調整するなどの便宜を図っている。又社内の他の施設の職員を講師として招き研修をしている</p>	○	<p>外部の研修を受ける機会を持ったり、内部では勉強会を開いて職員全体の介護力を高めたい</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>区の連絡協議会に出席し、情報を交換し勉強させてもらっている</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者や職員は会社に対する要望があれば会議において運営者に進んで話すことが出来るし、運営者は熟慮した上で意向に沿えるように判断する。又職員は、他人の意見をよく聞きお互いに納得のいくまで話せる場を持てるようにしている</p>	○	<p>職員間の輪を保つため、何か問題が起きた場合などじっくり話を聞き解決に向けて取り組む</p>
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は個々の職員の勤務の実態をよく把握しており、努力や実績に対して給料や賞与の面で評価するよう努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでに利用者本人から聴く機会は無いが、入所してからは利用者の訴えをよく聴き受けとめ、不安などを取り除けるよう努力している	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所の相談を受け付けた時点で家族またはケアマネから詳しく入所を必要としている状況を聞き取ることにしている	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入所を希望されてる方は他のサービスよりグループホームでのサービスが必要だと判断されているが、中にはどうしてもグループホームでの対応が出来かねる場合もある。その時は他のサービスを利用してもらうしかない	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時の不安や混乱はあるが、家族と一緒にすごすまた共に食事をしてもらうなどして徐々にホームに馴染んでいただけるようにしている。入所後しばらくは頻りに訪問していただくようお願いしている	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は共に日々を過ごすことによりお互いを理解し支えあえる関係を築いていけるように努力している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	職員は家族との関係も重視し、共に利用者を支えていけるよう努めている	○	誕生会やお花見、敬老の日、クリスマス会などの行事を開催する折には家族さんに案内をし参加を呼びかけ参加者とは共にくつろぎ交流を深めている。ただ参加者がほぼ決まっていて家族さんの来られない利用者は寂しい思いをしているかも知れない。利用者との関係が希薄な家族には状況を知らせるなどして意識提供をしたい。
29	○利用者や家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者とその家族との関係の理解に努めている。また良い関係が続けられるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との昔話や記憶を引き出す会話等によって関係を維持できるように努めているし、実際にも関係を支援している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	良い関係ばかりでなく、悪い関係には職員が仲立ちし、友好を持っている利用者同士には関係を支援するよう努めている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者が入院し、長期化することになり、ホームは退所扱いとなったが、職員は利用者の状況が気がかりであり、個人的に訪問を続けている場合がある。又、入院後訪問を繰り返し、死亡時には葬儀を執り行ったこともある		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が口にしたり態度で表す事柄から、希望や意向の把握に努めている。またカンファレンスにおいて、本人が欲していることや必要としていることを引き出し支援している	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや日々の生活の中から聞き出したり把握したりするよう努めている	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カンファレンスで確認している。また日々の状態については、申し送りで把握に努めている	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの討議を基に、ケアマネが介護計画を作成している。家族に対しては報告のみである	○ 家族さんの意見も伺った上で、介護計画を作成する必要があると考える
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に対しては、申し送りや会議ではかり、介護計画の見直しをしている	○ 状態の変化に対応できる、より身近なものとしての介護計画でありたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録表に、日々の状態や特記事項を記録し、共通認識をはかり介護計画作成やケアに生かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしての機能しか持っていないのでそのような支援は考えていない		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、近隣の教会、警察、消防署等の協力を仰いでいる		
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーとは交流があり、入所のための問い合わせがよくある。近隣にグループホームがあり、情報を得ることがある		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に出席してもらい緊密な関係にある。	○	地域包括センターからたくさんの情報を得ることが出来るので今後いっそう関係を深めたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>掛かりつけ医による往診の体制を取り、信頼関係を築き、それを基に他の医療機関が受けられるよう支援している</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>常時、認知症の専門医に診察を受け、気軽に相談を受けられる体制を取っている</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師が週に2回出勤し、通院したり日々の健康管理に注意を払っている</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中の医療機関のケースワーカーとは常に親しい関係を築いており、情報交換をし、退院できる状況であれば、速やかに退院させるようにしている。退院し、ホームに帰ることが無理であると医師が判断するときはそれに従い退所扱いとする</p>	○	<p>退院後の利用者の状況に対応できるよう職員の「介護力の向上に努めたい</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者家族、掛かりつけ医、管理者、ケアマネ、看護師、職員は運営者を交えて重度化した場合のホームとしての方針について話し合いを繰り返している</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>利用者の重度化が進み、それに対応してグループホームでの介護がどこまで出来るか、職員間で検討を続けている。家族の意向もあり肺炎でも入院せずに掛かりつけ医の往診で回復した例がある。かかりつけ医の判断に従い、出来るところまでホームで看たいと考えている</p>	○	<p>看取りという意味を家族に十分に理解してもらうため話し合いを繰り返す必要がある</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	そういう場合には、移転先のケア関係者に対して利用者個人の情報(介護サマリー)を提供している。又家族を交えて話し合いを持ちできるだけ住み替えによるダメージの無いように努めている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけないように、またプライバシーの保護に努めている		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言いやすい雰囲気の中で意思表示したり本音を出せるよう支援している。また日々の訴えには納得してもらえるよう対応している		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団の決まりは大切にしつつ、利用者に無理に強要したりすることの無いように努めているし、出来る限りの希望を叶えられるよう支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の身だしなみに気をつけ、おしゃれに気を配っている。美容師さんには定期的にホームに出張してもらっている	○	個々の希望に添って、美容院に行ってパーマをかけたり理容店を利用することも考えている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>54</p> <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の力に応じ、食材切や調理、盛り付けをして頂き、食事を一緒にしている。また役割行為として後片付けもして頂いている</p>		
<p>55</p> <p>○利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒、タバコはお勧めしていないが、おやつについては事情が許す範囲で、一緒に買物に行き好きなものを選んでもらい召し上がってもらっている</p>		
<p>56</p> <p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>1人ひとりのリズムに沿ってトイレ誘導し、出来るだけ失敗のないようにしている</p>		
<p>57</p> <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日、時間を決めさせてもらっているが、汗っぽい等状況により、また希望を聞きシャワー浴をしている</p>		
<p>58</p> <p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>1人ひとりの状況に応じ、休息していただいたり眠っていただくよう支援している</p>		
<p>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</p>			
<p>59</p> <p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の力にあつた役割活動をできる限り心掛けています。また楽しみや気晴らしを出来る限り日程の中に組み入れている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に応じ、自らお金を所持したり、預かって一緒に買物に行った時には使えるようにしているが、実際には自分のお金を支払って買物のできる人はいない。お金に対する意識は強く持っておられて、今財布の中に入っているということで満足を得ている方がいる		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ散歩に出かけるようにしている。また個別にドライブや買物に出かけるようにしている。	○	日常の業務に追われて散歩に行きたくてもなかなか時間が取れないことが多くなった。短時間であっても日課として散歩の時間を組み入れたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員と1対1で個別に好きな所に出かけられる体制を取っている。温泉につかり食事をしたり買物などそれぞれの利用者に合わせて支援している		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に添えるよう電話を掛けて欲しいと言われればそのように対応している。が御自分で電話の掛けられる方は居られない。家族さんからは手紙が来たり電話が掛かか取り次ぐと非常に喜ばれる方がいる		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂き、一緒に食事をしたり、お茶をしたりして歓待している。カラオケを一緒にすることもある	○	家族さんの中にはよく訪問される方は月に何度も来られているが、全くと言っていいほど疎遠な方もいてそういう方にも立ち寄っていただけるよう声掛けをしていきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施し、“しないケア”を心掛けている	○	すべての職員が正しい知識を共有し、身体拘束廃止を徹底したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室においては、やむを得ない場合に施錠したいきさつは有るが現在はしていない。また門戸については、外道の交通量が激しいので施錠している		
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	目の届く限り利用者の居場所を把握し、安全に配慮している	○	現在、階段の危険性を鑑み、エレベーターの設置を予定している
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	1人ひとりの状態に応じ、危険なものは各居室に置かないなど注意しているが、利用者には取り込み行為があり、居室に何があるかは常に点検する必要がある		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々に転倒、誤嚥、誤薬等に注意を払い、事故防止のため段差の解消、手すりの設置、刻み食対応、投薬管理等配慮している		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や心肺蘇生法の訓練を受け習得したが、実践できるかどうか不安である	○	定期的な訓練の実施を制度化し、すべての職員が対応できるようにしたい
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練はしているが地域の協力が得られるかわからない	○	訓練回数を増やし、地域の協力が得られるよう、日頃から交流を密にする必要がある。そのためにも運営推進会議に近隣の住民の参加を呼びかけたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一部の利用者に関して、持病と運動の兼ね合いについて話し合っている	○	利用者の状況については絶えず家族等に説明し、話し合いの場を持つ必要がある
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異常に気付いた時には、情報を交換し速やかに対処している	○	看護師が勤務に入り、また電話により指示を仰いでいる。また往診医には昼夜を問わず連絡を取れる体制が整い、その指示により速やかに対応している
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が各自、薬の効能、副作用、用量を理解して、間違いの無いよう朝昼夕の薬をセットしている。また薬による症状の変化等を把握するよう努めている	○	薬が処方どおり飲んでいるか確認する必要がある。床に落ちていたり、利用者が隠してしまうこともある
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解し、野菜を主にした食事作り、体操や散歩、便秘薬等で対処している。	○	職員は個々の利用者の便通の状況を把握し、早めに気づき対応するようにしている
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後とは行かないが、昼夕食後の歯磨き、入歯の洗浄等、利用者の程度に応じた介助をしながら、口腔内の清潔保持に努めている	○	口腔内の清潔保持は高齢者ケアにとって重要であり、誤嚥性肺炎を防ぐためにも、職員は積極的に支援する必要がある
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりのカロリーやバランスを考えた上での食事作り、水分摂取の確保に努めている	○	食事の取れない場合、摂取量に注意し、他の食品で栄養分の補給をしたり、医師による栄養補助食品の処方してもらっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防注射は利用者職員全員が受けている。ノロウイルスへの感染予防対策としては手の消毒、嘔吐物への対応はできている。MRSAについての勉強会を行い正しい知識を得た		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の消毒、冷蔵庫の温度管理、冷凍庫の管理、安全な食材の使用等に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物の周囲に季節の草花や木を植え、環境作りをしている	○	季節の草花を絶やさないう手入れしている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間である食堂や居間は採光を広く取りいれ明るく、窓から眺められる景色は季節感の感じられる山や緑で居心地良いものである。外の通りは車の往来が激しいが車道より建物が一段高い位置にあるためそれほど不快なほどの騒音は感じられない。利用者には我が家を感じてもらえるよう調度類にも気を配っている	○	居間でテレビが常時ついている状態をなくそうと、食事中時間制限をしてその間心地よい音楽を流すなど試みている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にベンチを置いたり、建物外にイスを設置したり、ひとりになれる空間がある。また気の合った利用者同士居間のソファに腰掛けくつろぐこともできる		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れたものを置き、利用者の好みの居室作りに配慮しているが、中には殺風景な部屋もある</p>	○	<p>もっと温かみのある居室にしたいと思っている</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>個々の利用者さんに応じた温度調節に気を配り、また匂いがこもらないよう換気に努めている。便臭や尿臭、ごみの匂いが気になることがあるのでこまめに消臭剤を使って除臭に努めている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室の段差解消、引き戸への改修、手すりの設置等により、安全かつ自立を図っている</p>	○	<p>現在使用している階段の昇降機を安全のためエレベーターにすることを計画している</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレへの張り紙、各居室の名前札、居間の日程表、カレンダー等を掲示するなど混乱や失敗を防ぐ配慮をしている</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関先においてあるイスやウッドデッキでくつろぐことができるし、敷地内を自由に移動することができる</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然に囲まれた環境の中でできるだけ家庭的な雰囲気与生活していただけるよう気を配っている。日々の献立にしても季節感のある家庭的な料理を中心に考えている。お花見やハイキングなど自然の中で季節を感じていただける機会をできるだけ持ちたいと願っている。